

冬期の園芸施設における雪害対策について

平成29年12月4日
奈良県農業水産振興課

近年、奈良県において、積雪によるパイプハウス等の倒壊被害が多くなっています。
平成22年12月30～31日、平成25年1月14日、平成26年2月14日の大雪では、平坦部でも積雪があり、特に平成26年にはブドウハウスでも多くの被害が発生しています。

大阪管区气象台11月24日発表の3ヶ月予報（12月～2月）では、近畿太平洋側の降水量が平年より多い確率は20%（少ない40%、平年並40%）、気温については、平年より低い確率が40%（高い30%、平年並30%）と予想されています。

大雪の予報は台風と比較して、気象情報の発表が直前になる傾向があり、思わぬ急な降雪が被害を大きくする要因となり、今後、本格的な降積雪期を迎えるにあたり、積雪に対し油断なく警戒することは重要であると考えられます。

園芸施設の被害はその復旧に多大な経費と時間、労力を要します。今後も気象情報に注意するとともに、別紙「園芸施設の雪害に対する技術対策について」を参考に、普段からの雪害対策に努めるようにしてください。

近年の積雪による園芸施設被害

(奈良県調べ)

発成年月日	件数 (件)	面積 (ha)	主な発生地区
H22.12.30～31	264	5.5	宇陀市(199a)、曽爾村(164a)、御杖村(87a) 他4市町村
H25.1.14	570	12.8	宇陀市(348a)、五條市(314a)、桜井市(153a) 曽爾村(129a)、奈良市(103a)、天理市(81a) 他7市町村
H26.2.14	339	13.5	五條市(261a)、大和郡山市(165a)、斑鳩町(149a) 天理市(121a)、河合町(114a)、宇陀市(91a) 他20市町村

フィルム破損程度の小破を含む

園芸施設の雪害に対する技術対策について

平成29年12月4日
奈良県農業水産振興課
農業技術支援係

1. 野菜・花き施設の対策

1) 事前準備

- ・作付けしていないパイプハウスのフィルムは除去する。除去しない場合は、フィルムの破れ・隙間を補修し気密性を高めて保温し、雪の滑落を促す。
- ・イチゴ育苗ハウスのフィルムは除去する。
- ・寒冷紗等の遮光資材は、雪が滑り落ちにくくなるので、必ず除去しておく。
- ・フィルムがたわんでいたり、ハウスバンドがねじれていたりすると、着雪、積雪しやすいので、点検・補修を行いフィルムをしっかりと張って着雪を未然に防止する。
- ・古いフィルムは雪が滑り落ちにくく、倒壊の要因になりうるので注意する。
- ・アーチパイプの腐蝕（さび）部分を補修する。
- ・筋交いの端が妻面、地面に固定されているか確認する。
- ・フックバンドやクロスタイ等の固定金具が外れていないか、又奥行き直管パイプの接合部分が外れていないか等確認し、修復しておく。
- ・融雪水の排水を促すため、排水路を整備しておく。
- ・パイプハウスの具体的な補強方法については、別添の「パイプハウスの雪害対策マニュアル」を参照すること。

2) 降雪時・降雪後の対策

- ・倒壊の恐れのある施設には近づかない。
- ・見回りや雪下ろし等の作業は施設の倒壊に注意し、すべりにくい靴を履き、一人で行わず複数人で行う。
- ・暖房機が設置されている場合は、内張りカーテンを開放し可能な範囲で室温を高め、屋根雪の滑落を図る。
- ・無加温ハウスの場合は、施設の気密性を高め、内張りカーテンを開放して地熱の放射により室温を高め、屋根雪の滑落を図る。
- ・積雪後に融雪の目的でパイプハウス天井に散水すると、水を含んだ雪の重量が増大し倒壊の恐れがあるため行わない。
- ・人命最優先を旨とし、大雪や吹雪等の悪天候時には、作業は行わない。

2. 果樹施設の対策

1) 事前準備

- ・フィルムがたわんでいたり、ハウスバンドがねじれていたりすると着雪、積雪しやすいので、点検・補修を行いフィルムをしっかり張って着雪を未然に防止する。
- ・アーチ部の支柱による補強、連棟ハウスでは谷部分を中心に支柱などによる補強を実施する。
- ・加温機が設置されている場合は、フィルム被覆後はできるだけ早く加温機の稼働準備をし、融雪のための暖房に備え、燃料を補充しておく。

2) 降雪時・降雪後の対策

- ・加温機が設置されている場合は、
 - ①夕方以降に降雪が予想される場合には、早めに密閉し、施設内の温度を可能な範囲で高めに設定して加温機を稼働させる。
 - ②着雪してからでは効果が劣るので、降雪直後から加温する。カーテンがある場合は、開放して屋根雪の滑落を図る。
- ・無加温ハウスでは、ストーブなどで加温し屋根雪の滑落を図る。
- ・見回りや雪下ろし等の作業は施設の倒壊に注意し、すべりにくい靴を履き、一人で行わず複数人で行う。
- ・降雪時の屋根や谷での除雪作業は、危険を伴うのでハウスからの滑落や落雪に十分注意する。
- ・連棟の場合、積雪荷重が偏らないよう中央部から除雪を行う。
- ・人命最優先を旨とし、大雪や吹雪等の悪天候時には、作業は行わない。